

松本 Innovation 一人ひとりが豊かさを追求できるまちへ

松本は、大きなポテンシャルを持っています。
しかし、いま時代に即した手を打たなければ、
ポテンシャルは文字通り潜在力に留まります。
明治の黎明期、松本の人々は、
松本城の天守を自分たちの手で守り、
一人ひとりの寄付で開智学校を創りました。
松本の大いなるポテンシャルを開花させるために、
臆することなくイノベーションを起こすときです。
守るべき価値を継承し、先端技術を全世代のために活用し、
一人ひとりが豊かさを追求できるまちを目指していきます。

政策骨子

子育て・教育

「徹底した子育て支援・教育環境整備で、希望出生率1.8を早期に実現します。」

交通・まちづくり

「一人ひとりの移動する権利を保証し、切れ目のない洗練された交通インフラをデザインします。」

産業・経済

「松本の自然や文化のポテンシャルと先端技術を結びつけ、地域の稼ぐ力を底上げします。」

防災・SDGs

「市民の命と健康を守り、誰も置き去りにしない福祉政策を展開します。」

市役所・住民自治

「市役所のデジタル化分散化オープン化を推進し、地域と伴走する行政システムを構築します。」

子育て・教育「徹底した子育て支援・教育環境整備で、希望出生率1.8を早期に実現します。」

- ❑ 「待機児童ゼロ」を恒常的に実現するために、保育園の公設民営化を進めるなどして、保育士の処遇改善を図ります。
- ❑ 子育て支援策のターゲットを未婚層～子育て層（妊娠から高校卒業）に分割し、各層の課題解決につなげる政策を総動員します。
- ❑ 妊娠から入学まで子育ての相談にワンストップで切れ目なく対応する「松本版ネウボラ」（こどもプラザ）を大幅に増設します。
- ❑ 様々な子育て支援のサービスを無償または割安で利用できる「松本市子育てバウチャー」を導入します。
- ❑ スマホの利用を軸に、誰もが必要なときに子育てに関する情報や相談窓口にアクセスできる環境を整備します。
- ❑ 特色ある教育や地域の特性を重視し、モデル校の設置を含めて、義務教育で柔軟かつ多様な学校運営ができる体制を整えます。
- ❑ 就学前からの多言語教育を積極的に推進すると共に、小中学校の教育現場に最先端のＩＣＴインフラを整備します。
- ❑ 教員の負担を軽減して子どもと向き合う時間を確保するために、事務作業のデジタル化や部活動指導員の幅広い導入に取り組みます。
- ❑ 特別支援教室や特別支援学校の人員・施設の充実を図り、障がい児が18歳以降も学べる受け皿づくりを進めます。
- ❑ 高齢者を対象としたＩＣＴ教育を多角的に展開し、松本市民のＩＣＴ端末利用率を大幅に引き上げます。

交通・まちづくり「一人ひとりの移動する権利を保証し、切れ目のない洗練された交通インフラをデザインします。」

- ❑ 慢性的な渋滞を緩和するために、必要な道路の建設について、予算の確保と住民の同意に積極的に取り組みます。
- ❑ 渋滞箇所の一斉調査を行って右折レーンの増設を進めると共に、内環状線計画を見直して中心市街地の道路を再設計します。
- ❑ 奈良井川や田川の堤防道路をはじめ、市内の東西南北をつなぐ動脈となるバイパス道路を、交通量を踏まえて再整備します。
- ❑ バスを「市民の足」と位置づけて、運行に対する行政の関与を強め、住民の要望に沿った路線網の整備に取り組みます。
- ❑ スマホで決済ができるシステムの導入や松本駅との接続強化を図り、バスの利便性を向上させます。
- ❑ 自転車先進都市を目指し、河川敷を有効活用したサイクリングロードの整備や便利で景観に配慮した駐輪スペースの設置を行います。
- ❑ 歴史と生活に配慮した中心市街地のゾーニングを推進し、観光車両を通さないルートの確立や歩行者天国の実施に取り組みます。
- ❑ J R松本駅の再開発やパークアンドライド拠点の新設を念頭に、市街地における新交通システム導入の実現を目指します。
- ❑ 将来の自動運転によるオンデマンド型バスサービスの導入に向けて、実用化を見据えた検討や先進企業とのタイアップを進めます。
- ❑ 信州まつもと空港をアジアと直結する国際空港にすることを目指し、鉄道とのアクセス向上や物流拠点の整備に取り組みます。

産業・経済「松本の自然や文化のポテンシャルと先端技術を結びつけ、地域の稼ぐ力を底上げします。」

- ❑ 松本城の外堀復元事業を完遂し、三の丸周辺を天守と山の景観が融合する歴史観光エリアとして総合的に整備します。
- ❑ 世界に冠たる山岳観光リゾートを目指し、松本平と北アルプスを結ぶ観光インフラや美ヶ原を通年で楽しめる交通アクセスを整備します。
- ❑ 全国屈指の農業適地であることをPRし、食品の特産化や先端技術の導入に取り組む農業者の支援に取り組みます。
- ❑ 食と自然と観光を組み合わせ、農村や里山の新たなライフスタイルを地域の収益につなげていきます。
- ❑ 「ヘルスラボ」事業を広報戦略やデータ収集の面で抜本的に強化し、デジタル技術を活用したヘルスケア産業の振興に取り組みます。
- ❑ 松本山雅や国体開催をベースに、スタジアムビジネスで収益を上げる可能性を追求し、世代を超えてスポーツを楽しめる都市を作ります。
- ❑ 世界水準の音楽・芸術・文化を長く育んできた土壌や人材を活かし、クリエイティブ産業の育成を推し進めます。
- ❑ 個人事業主や小規模企業の新規設立が行える制度を拡充すると共に、国や県と連動して人材育成や事業承継を後押しします。
- ❑ 地域別最低賃金の一層の引き上げを働きかけるなどして、東京圏との賃金格差の是正に取り組みます。
- ❑ ライフステージに応じた柔軟で多様な働き方（育児介護休暇・残業なし・テレワーク・リモートワーク）を選択できる環境を整備します。

防災・SDGs「市民の命と健康を守り、誰も置き去りにしない福祉政策を展開します。」

- ❑ 大地震やゲリラ豪雨といった大災害に備え、市役所の庁舎に災害対策本部を常設する態勢を整えます。
- ❑ すべての市民が緊急の災害情報をスマホやラジオでいつでもどこでも受信できる「防災情報システム」を構築します。
- ❑ 災害発生でライフラインの根幹である電力の供給が滞らないように、無電柱化の推進や非常電源の増設に取り組みます。
- ❑ 豊富に存在する太陽光や木質バイオマスを活用した「分散型再生可能エネルギー」発電の導入・利用を推し進めます。
- ❑ 多世代多職種で支え合う「地域包括ケア社会」を目指し、行政が主導して、モデル地区の支援や見守り事業の充実に取り組みます。
- ❑ 健康長寿に対する食べることの重要性を認識し、すべての世代にわたって口腔ケアの普及を推し進めます。
- ❑ 市立病院（旧波田総合病院）の移転計画は、地域密着型病院の原点に立ち戻り、代替用地の再検討を含めて早急に見直しを図ります。
- ❑ ひとり親家庭の自立を支援するために、就業相談にあたる支援員の拡充や夜間休日の保育サービスの充実に取り組みます。
- ❑ 「パートナーシップ制度」を導入するなどして、多様な生き方を受け入れる差別のない都市を目指します。
- ❑ 松本市に居住する外国人が安心して暮らし続けられるように、日本語教育や子どもの就学を支援する態勢を強化します。

市役所・住民自治「市役所のデジタル化・分散化・オープン化を推進し、地域と伴走する行政システムを構築します。」

- ❑ 市役所庁舎の「現地建て替え計画」は、スリム化・分散型・現場主義の観点から、根本的に見直します。
- ❑ デジタル手続法に基づいて、徹底したペーパーレス化・電子化を推進し、行政手続きをオンラインで完結できるシステムを整備します。
- ❑ できるだけ近い場所でワンストップの行政手続きが行えるように、35地区の地域づくりセンターの態勢と権限を強化します。
- ❑ 地域の事情や特性に即して市民参加型の行政を推進するために、7つ程度のブロック単位で政策を立案・執行する枠組みを検討します。
- ❑ 市役所から各町会に委託している業務を仕分けし、町会が本来の住民自治に取り組める環境を整えます。
- ❑ 市長直轄の総合戦略部局を新設し、脱縦割り・ボーダーレスで政策の立案を押し進める体制を作ります。
- ❑ 女性が行政の意思決定に参画する機会を増やすために、副市長を含めて幹部職員の3割を女性にすることを目指します。
- ❑ 職員の人事制度や研修方法のあり方を見直し、外部環境の変化に適応できる専門性の高い職員を育成します。
- ❑ 行政と市民をもっと近づけるために、市長と市民の「多事争論会」やスマホで手軽に要望を届けられる「デジタル窓口」を実施します。
- ❑ 新たな視点から市政課題を解決するために、若い世代から事業の提案を募って予算編成に反映する「若者提案制度」を導入します。

参考資料：用語解説

◇希望出生率

若い夫婦が予定している子供は何人か、未婚で結婚を希望している人が理想とする子供は何人かを調査して算出した出生率。政府は、2012年の調査を元に、1.8と想定し、2025年に達成することを目標に掲げた。

◇SDGs

国連総会で採択された、2016年から2030年の開発目標＝持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略称。17の分野別の目標と付随する169の達成基準で構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを掲げている。

◇デジタル化

デジタル化の定義は必ずしも明確ではないが、手続きのオンライン化やペーパーレス化、ICTやAIを用いた効率化の意味合いで使われる。なお、辞書的な意味のデジタルは、「数や量を有限桁数の数値で表現する方式」。

◇ネウボラ

フィンランド語で「相談・アドバイスの場所」を意味する言葉。フィンランドでは、妊娠期から就学前までかかりつけの専門職（助産師または保健師）により、ワンストップで継続的に母子とその家族に対する相談や支援が行われている。

◇バウチャー制度

国や自治体などが、目的を限定して個人を対象に補助金を支給する制度。所定の手続きによって引換券として支給する方式が多い。

◇ICT

情報通信技術（Information and Communication Technology）の略称。コンピューター関連技術をIT、コンピューター技術の活用に着目する場合をICTと、区別して用いられることが多い。

◇パークアンドライド

自動車を駅周辺の駐車場に停めて、電車やバスに乗り換えてもらうことで、自動車の利用を抑制する方策。渋滞の緩和や環境の改善に効果が見込まれる。

◇地域包括ケア

重度の要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する体制。団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に構築することが求められる。

◇パートナーシップ制度

男女の婚姻関係と異ならない程度の実質を備えた、同性の2人の社会生活における関係を「パートナーシップ」と定義し、法的根拠はないものの、パートナーの関係であることを証明する制度。2015年に渋谷区・世田谷区でスタートし、全国で少なくとも20の自治体に広がっている。

◇デジタル手続法

今年5月31日に公布された、行政手続きを原則デジタル化する法律。様々な行政手続きをオンラインで完結させる「デジタルファースト」、同じ資料を何度も提出させない「ワンスオンリー」、民間企業に関わる手続きも一括して済ませられる「コネクテッド・ワンストップ」を3原則とする。自治体は、努力義務。